

The Impact of COVID - 19 on the mental health of dialysis patients

Anna A. Bonenkamp, Theresia A. Druiventak, Anita van Eck van der Sluijs, et al.

Journal of Nephrology. 2021 Mar 19;1-8. Online ahead of print.

全文 URL: <https://link.springer.com/content/pdf/10.1007/s40620-021-01005-1.pdf>

透析患者のメンタルヘルスへの COVID-19の影響

透析患者は COVID-19の罹患・重症化の高リスク群であるため、不安・抑うつ・過度なストレスに曝露される可能性が高いが、透析患者のメンタルヘルスへの COVID-19の影響はまだ調べられていない。オランダの在宅透析(腹膜透析と在宅血液透析)と施設透析患者の health-related quality of life (HRQoL) を比較する前向き観察研究である Dutch nocturnal and home dialysis Study To Improve Clinical Outcomes (DOMESTICO)のコホートをを用いて、COVID-19パンデミック期の2020/2/7～6/1と、この期間より3-6ヶ月前の両方で HRQoL が測定できた患者を組み入れた。主要評価項目は Mental Component Summary (MCS) 、副次項目を Physical Component Summary (PCS)とした。177人が組み入れられ、平均年齢64.9歳、63%が男性、糖尿病を原疾患とする患者は18%、透析導入後期間が短い患者(3-6ヶ月前)が61%、施設透析患者が75%、腹膜透析患者が25%、実際に COVID-19に罹患した患者は2名(1%)であった。MCS はパンデミック期前が 48.1 ± 10.1 、パンデミック期が 49.0 ± 10.0 であり、2つの期間の複数因子での調整後 MCS 平均差は0.93 (95%信頼区間-0.57 to 2.42)と有意差は認めなかった。一方で PCS は 35.9 ± 9.99 と 37.5 ± 10.4 であり、2つの期間の複数因子での調整後 PCS 平均差は1.64 (95%信頼区間0.28 to 2.99)であり有意に上昇していた。主要評価項目(MCS)で差がなかった理由として、①すでに疾患に関する不自由さや身体的苦痛感にさらされている透析患者はストレス対処能力の指標となる“resilience”が備わっている、②一般人口において非雇用状態は雇用状態に比べ COVID-19パンデミック期では精神的苦痛が低下すると報告されており、本研究のコホートの84%が非雇用状態であったこと、③元々一般人口と比較して活動的ではなく、stay at home オーダーに対する受容ができていた、などが考察されていた。尚、PCS が上昇した理由は考察されていなかった。

要約作成者のコメント:

上記①-③以外に MCS に差がなかった理由として、本研究の対象者は PCS がむしろ有意に上昇し、透析導入後期間が短く、糖尿病の割合が低いなど全身状態が良好な患者が多く含まれていた可能性、政府からの stay at home オーダー発令前(3月12日)に HRQoL を測定された患者も含まれていたこと、なども挙げられるだろう。また前後比較での検討であることなど多数のバイアス・研究の限界はあると考えられる。しかし、主に COVID-19非罹患透析患者の Patient Reported Outcome の貴重な生データであり、また HRQoL は人種差・地域差が多いとされるが、DOPPS 研究より本邦の透析患者の MCS は PCS と異なり欧米諸国と比較して差がないことが示されており(Kidney Int. 2003; 64: 1903.)、本邦にも適応可能、かつ、有意義な報告であると考え紹介しました。

要約作成者: 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 谷澤 雅彦